

# 経営指標の意味と算出方法について

## 【水道事業】

### 1. 経営の健全性・効率性

	算出式(法適用企業)
① 経常収支比率(%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$

#### 【指標の意味】

法適用企業に用いる経常収支比率は、当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度まかなえているかを表す指標です。

#### 【分析の考え方】

単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要であり、数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要です。

	算出式(法適用企業)
② 累積欠損金比率(%)	$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$

#### 【指標の意味】

営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補てんすることができず、複数年度にわたって累積した損失のこと)の状況を表す指標です。

#### 【分析の考え方】

累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが必要です。数値が0%より高い場合は、経営の健全性に課題があるといえます。

	算出式(法適用企業)
③ 流動比率(%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$

#### 【指標の意味】

短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。

#### 【分析の考え方】

1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示しています。100%以上であることが必要であり、100%を下回るということは、1年以内に現金化できる資産で、1年以内に支払わなければならない負債をまかなえていないことになるため、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要があります。

	算出式(法適用企業)
④ 企業債残高対給水収益比率(%)	$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$

#### 【指標の意味】

給水収益に対する企業債残高の割合で、企業債残高の規模を表しています。

#### 【分析の考え方】

明確な数値基準はないため、経年比較や類似団体との比較等により当市の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断するための指標です。

算出式(法適用企業)	
⑤料金回収率(%)	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$

**【指標の意味】**

給水にかかる費用が、どの程度給水収益でまかなえているかを表した指標で、料金水準等を評価することができます。

**【分析の考え方】**

供給単価と給水原価との関係を見るものであり、料金回収率が100%を下回っている場合は、給水にかかる費用が給水収益以外の収入でまかなわれていることを意味します。数値が低く、繰出基準以外の繰出金によって収入不足を補填しているような場合は、適切な料金収入の確保が求められます。

算出式(法適用企業)	
⑥給水原価(円)	$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費}) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}} \times 100$

**【指標の意味】**

有収水量1m<sup>3</sup>あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。

**【分析の考え方】**

明確な数値基準はないため、経年比較や類似団体との比較等により当市の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断するための指標です。また、必要に応じて、投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善が必要です。

算出式(法適用企業)	
⑦施設利用率(%)	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$

**【指標の意味】**

一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。

**【分析の考え方】**

明確な数値基準はないが、一般的には高い数値であることが望まれます。類似団体より数値が低い場合には、施設が遊休状態ではないかといった分析が必要です。水道事業の性質上、季節によって需要に変動があり得るため、最大稼働率等とあわせて判断することにより、適切な施設規模を把握する必要があります。

算出式(法適用企業)	
⑧有収率(%)	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$

**【指標の意味】**

施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標です。

**【分析の考え方】**

100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言えます。数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水等の原因を特定し、その対策を講じる必要があります。

## 2. 老朽化の状況

	算出式(法適用企業)
①有形固定資産減価償却率(%)	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$

### 【指標の意味】

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しています。

### 【分析の考え方】

明確な数値基準はないため、経年比較や類似団体との比較等により当市の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断するための指標です。数値が100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができます。

	算出式(法適用企業)
②管路経年化率(%)	$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$

### 【指標の意味】

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示しています。

### 【分析の考え方】

明確な数値基準はないため、経年比較や類似団体との比較等により当市の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断するための指標です。一般的に、数値が高い場合は、法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、管路の更新等の必要性を推測することができます。

	算出式(法適用企業)
③管路更新率(%)	$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$

### 【指標の意味】

当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できます。

### 【分析の考え方】

明確な数値基準はありませんが、数値が1%の場合、すべての管路を更新するのに100年かかる更新ペースであることがわかります。類似団体との比較により、当市の置かれている状況を把握・分析し、適切な数値となっているかを判断する必要があります。